

古民家生活の四則演算 一たす、ひく、かける、わるー



かつての日本の農家建築は、自然と共に生きる知恵の集積だった。土間や板間、土壁などの素朴な構成は、地域の素材と環境に根ざしながら、自立した生活の仕組みを支えていた。しかし現代では、その形を全て再現しそこに住み続けることは難しい。

本提案では、この「自立する暮らしの構造」を現代の住宅スケールに再編する。着目したのは、私の通う学校が位置する宮城県名取市に伝わる伝統農家建築「名取型」である。その開放的な構造と素朴な合理性を基礎に、再構築の手法を「四則演算」として提案する。

ダイアグラム

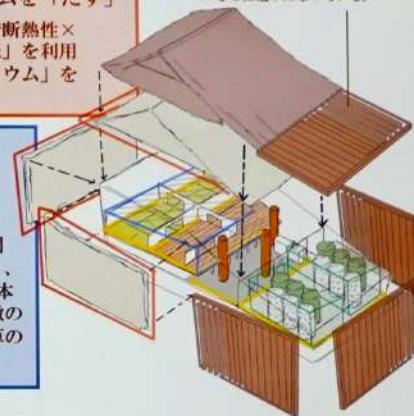
+ 新建材マイセリウムを「たす」

伝統農家は一般的に土壁で断熱性×日本の特産品である「米」を利用した新建材、「米マイセリウム」を断熱材に使用

― 名取型は「ひく」建築

宮城県名取市で見られる「名取型」の古民家は土間と板間の仕切りが「ない」、天井が「ない」、土間の3本の独立柱があることが特徴の建築で、これは正に引き算の建築である

ハウスの屋根部分はナチュラルスラットのみで覆われており、外からの日光や風を壁や床に取り入れる。雨や雪、冬期にはスラットを閉じ、自然条件に応じて開閉できる仕組みになっている。



× スマート農業を

「かける」
従来の農家は広い土地に畑や水路が分散している。そこで、スマート農業の考えを取り入れたタワー型水耕栽培ポットを配置し、年中安定して野菜が手に入る仕組みに

÷ 生活空間・機能を

古民家的に「わる」
手前から奥に向かい、ハウス→土間→板間→畳の順で、外部空間から内部空間へのゆるやかなグラデーションとなり、ソトとウチがつながるよう空間を割り振っている

『米』マイセリウムとは？

・マイセリウムとは？

固形体の集合体のこと。有機繊維を分解接着して固めることで作られ「生きた建材」とよばれる。主に断熱材に使われる。

・特徴

- ①自然由来・生分解可能
- ②軽量で断熱性・吸音性に優れる
- ③形状の自由度が高い
- ④生産過程が低エネルギー

環境に優しい建材！

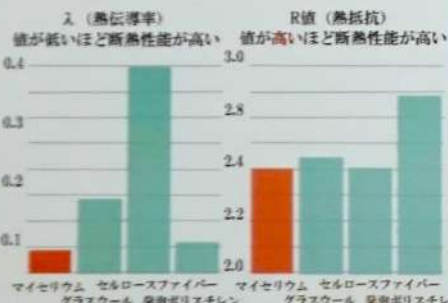


ブロック状、板状と様々な形に整形可能

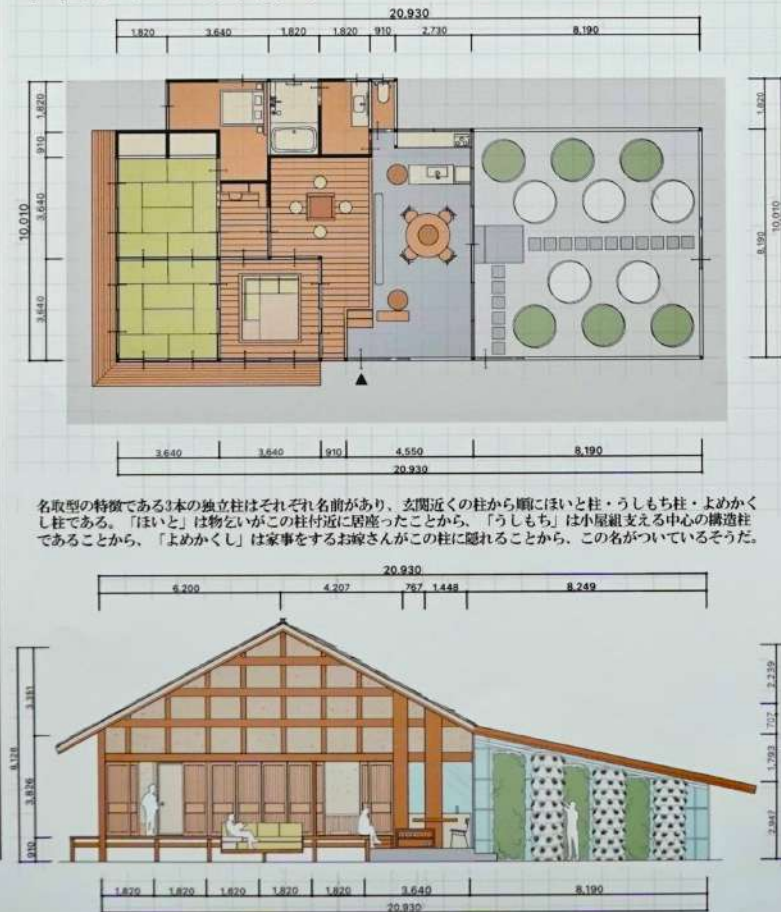
米マイセリウム建材の提案

米は日本の主要農産物で、米ぬか・もみ殻は副産物として大量に廃棄されている（米ぬかは年間300～350万t、もみ殻は250～300万t）これを利用して廃棄物の有効利用と日本の地域資源の循環型利用を目指す。「米を育てるだけでなく、建材としても活かす」新しい日本型サステナブル建材

・従来の断熱材との比較（厚さ100mm換算）※中央値を比較



平面図・断面図



空間イメージ



玄関からの眺め。右手に見える柱が「はい」と柱で、その名から外部と密着していると解釈し、本設計ではこの柱の近くに玄関を配置した。



いろりリビングからの眺め。名取型の構造を模し、板間と土間の間に仕切りがない。開放感とストロークを囲うように読める場所に。



ソファリビングの眺め。襦り込みソファにすることで、土間から畳間への視線の「ぬけ」を邪魔しない仕組みに。



水耕栽培タワーの園。葉野菜全般、ラディッシュやニンジン、根菜、ピーマン、ナス、ズッキーニなどの夏野菜も作ることが可能！



土間キッチンからの眺め。本設計ではよめかくし柱の近くにキッチン、うしもち柱は「構造柱の中心」を「家族の中心」と解釈し、家族の集まる中心であるダイニングテーブルを配置した。



茶室からの眺め。伝統的な茶室の使い方と同じく、客間・客室としても利用できる。空間の仕切り方を変えることで、さまざまな用途で利用することができる。